

インバウンド(訪日外国人)が急増し、観光産業が新たな成長エンジンとして注目されている。2020年までに訪日客を4千万人に増やす目標が現実味を帯びるなか、観光産業を担う人材育成は焦眉の急だ。経営感覚を持つ観光人材育成に必要なことは何か。田村明比古・観光庁長官と観光人材育成に力を入れる沼上幹・一橋大学副学長、若林靖永・京都大学経営管理大学院院長、和田健夫・小樽商科大学長が今後の方向性を語った。



ホスピタリティには 人材管理能力が必須

一橋大学副学長 沼上幹氏

と実践の繰り返し。エラーニングによる復習や補習ができる仕組みも取り入れた。産学官が連携して講義を担当し、受講生と交流することで様々な課題があげられ、観光産業の活性化や人材育成に関する共通の議論の素地ができた。

大学の視点で、業界発展に力を。沼上 観光MBAや観光教育は導入期だ。事例や教材を国の資産として蓄積していくため産学官の連携は欠かせない。観光産業全体を育成するため、先端的な観光企業にも

企画・制作 日本経済新聞社クロスメディア営業局

広告

次代の観光産業をリードする 経営人材の育成強化が急務



交流人口の拡大が 成長維持に不可欠

観光庁長官 田村明比古氏

国際競争の時代に。田村 インバウンドの取り込みは非常に重要な政策課題になってきた。日本が本格的に人口減少時代を迎えていることもあり、交流人口の拡大は成長維持に不可欠だ。アジア諸国の経済成長や内

力を持たなければならぬ。観光産業を支える人材育成システムが脆弱ではないのか。国際競争にさらされているという感覚が不足していると思う。世界を見渡せば、観光需要を取り込むと力を入れている国がひしめく。日本が「選ばれる国」にならない。意識改革と人材育成システム強化が求められる。観光人材育成に取組む大学の協力が非常に重要だ。

戦略立案と 経営のできる人材

沼上 インバウンドの増加は二重の意味でチャンスだ。国内市場の成長が期待できる。有望な市場であるという意味でもチャンスだが、日本のホスピタリティ産業を経営する人の数を増やすという点でも重要な転機である。日本で経験したホスピタリティを評価

若林 観光も経営なので、戦略的かつ効率的に経営を考へられる人材を育成する。MBAの基本的な枠組みは重要だ。だが、観光は正解が一つではなく、色々な可能性があり、MBA人材も必要だが、

若林 観光も経営なので、戦略的かつ効率的に経営を考へられる人材を育成する。MBAの基本的な枠組みは重要だ。だが、観光は正解が一つではなく、色々な可能性があり、MBA人材も必要だが、



起業家精神持ち 挑戦できる人材を

京都大学経営管理大学院院長 若林靖永氏

試験錯誤を通じて挑戦ができる人材も求めたい。例えは、従来の観光MBAコースに加えて、地域で観光地を開発した事業者がネットワークをつくって開発を進めるグラウンドデザインを描ける人材を育てるといったような現場で戦略を展開する人材を育てる授業を提供する。地域観光開発戦略を推進するプ

ロデュサー、観光産業活性化のリーダー、新規観光事業を創造する起業家の育成に取組んでいく。

和田 昨年度観光産業の中核を担う人材を育成する講座を観光庁とともに開発した。本学のMBA教育を取り入れた地方の旅館やホテルの経営者ら社会人の学び直しの講座だ。内容は研修と実践、研修

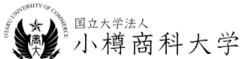
研修と実践繰り返し 学び直しの場提供

小樽商科大学長 和田健夫氏



田村 我が国の観光産業は成熟した国内観光を相手にしてきた。そこに、インバウンドがもたらす新たな市場が生まれ、開拓の余地も極めて大きい。さらに、成熟したと思われていた国内観光もインバウンドに対応することで、日本人の顧客にも新たなサービスを提供できる可能性を秘めている。

改革が起ころうとしている。既存の業界の中でもアウトサイダーや異業種から。大学は観光産業においては、新鮮な目で観光産業を観察し、批判的かつ建設的な研究を行うことで業界の発展に寄与していただきたい。



観光MBAを平成30年度に向けて設置準備中

- ・一橋大学大学院商学研究科「ホスピタリティ・マネジメント・プログラム(仮称)」
- ・京都大学経営管理大学院「観光経営科学MBAプログラム(仮称)」

受講者募集

～地域でがんばる次世代の宿泊経営者を応援します～ 観光産業を担う中核人材育成講座

観光庁では、地域経済や雇用創出において大きな役割を担う宿泊産業の強化・発展を推し進める次世代経営者育成のための講座を地域の各大学と連携して開講します。本講座は、旅館・ホテルの次期経営者(後継者を含む)、役員や管理職といった経営幹部候補のマネジメント力強化を目的としております。ぜひ、自身の知識やノウハウ習得、スキルアップの場として、または社員教育の機会としてご活用ください。皆さまからの積極的なご参加をお待ちしております。

小樽商科大学

会場:小樽商科大学札幌サテライト(第1、第2ターム内 11/17、第3ターム) ザ・ウィンザーホテル洞爺(第2ターム内 11/18、19)

●カリキュラム(予定)

日程	時間	科目内容/講師
第1ターム「観光政策と戦略・マーケティング」		
2016年10月11日(火)	13:00~17:30	講演「旅館・ホテル経営の実学」/日本旅館協会会長 針谷了
10月12日(水)	9:00~17:30	経営戦略論/小樽商科大学大学院(ビジネススクール)教授 李済民
10月13日(木)	9:00~17:30	経営戦略の実践/地域の魅力研究/近藤真弘
		マーケティング論/小樽商科大学大学院(ビジネススクール)教授 近藤公彦
		外国人観光客誘致による地域活性化/レインボウハブリング 代表取締役 川端祥司
第2ターム「財務分析、現場視察を兼ねた特別講義」		
11月17日(木)	13:00~17:30	旅館・ホテルの収支・財務・資金調達 /日本政策投資銀行北海道支店長 松嶋一重
11月18日(金)、19日(土)	14:00~19:00	ザ・ウィンザーホテル洞爺での特別講義
		理想のリゾートホテルを目指して/ザ・ウィンザーホテルズ 常務取締役 佐藤徹
		北海道の食とブランド戦略(洞爺湖サミットアレンジメニュー試食と関連講義)/ザ・ウィンザーホテル洞爺総料理長 飯島豪
第3ターム「ビジネスプラン発表会と特別講演」		
2017年3月8日(水)	13:30~18:00	エクスパリエンス・マーケティングの実践 /マーケティングコンサルタント 藤村正宏
		サービス産業の労働生産性革新 /サービス産業革新推進機構代表理事 内藤耕
3月9日(木)、10日(金)		受講者によるビジネスプラン発表会 /小樽商科大学大学院(ビジネススクール)講師陣による講評
		お客さま密着して地域に貢献する十勝バスの取組み /十勝バス 代表取締役社長 野村文吾

和歌山大学

会場:公益財団法人日本ケアフィット共育機構 大阪事務所 または 阪南大学あべのハルカスキャンパス

●カリキュラム(予定)

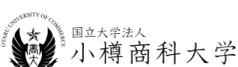
日程	時間	科目内容/講師 (科目順・講師は事情により変更になる場合があります)
10月8日(土)	11:00~16:45	観光産業概観 宿泊事業と観光政策/観光庁 宿泊事業の経営戦略/橋本俊作
10月22日(土)	11:00~16:45	宿泊事業の会計と財務/八島雄士(和歌山大学) 旅行業と宿泊業の関係・OTAとの関係 宿泊事業経営の面白さ/横田浩(元白浜温泉むさし総支配人)
11月12日(土)	11:00~16:45	宿泊事業のマーケティング/李貞順(阪南大学) 宿泊事業の革新 ビジネスプランの設定とそためのグループディスカッション
11月26日(土)	11:00~16:45	宿泊業と従業員・労働生産性の向上 海外から見た日本の宿泊/小野田金司(神戸山手大学) インバウンドの実態・FIT化への対応/村山慶輔(やまとごころ)
12月17日(土)	11:00~16:45	ビジネスプラン発表会に向けてのグループディスカッション ビジネスプラン発表会と講評 ビジネスプラン発表会と講評・修了式

大分大学

会場:ホルトホール大分・サテライトキャンパス

●カリキュラム(予定)

日程	時間	科目内容/講師
第1ターム		
2017年2月6日(月)	13:20~17:00	講演「日本の観光政策」/観光庁 講演「旅館経営の哲学と科学」/日本旅館協会会長 針谷了
2月7日(火)	13:30~17:20	グループワーク・ビジネスプランの組み立て 旅館・ホテルの財務・資金調達 宿泊業の経営戦略を考える /大分大学経済学部准教授 仲本大輔
第2ターム		
2月15日(水)	13:00~17:50	宿泊業のおもてなし(仮) 旅館・ホテルの人材育成 サービスマーケティング/大分大学経済学部教授 松隈久昭
2月16日(木)	10:30~16:45	宿泊業における再生・活性化(仮) ビジネスプランのプレゼン準備 受講者によるプレゼン 修了式 (詳細は、9月中旬に大分大学経済学部のホームページに掲載予定)



小樽商科大学 グローバル戦略推進センター
TEL 0134-27-5495
E-mail:cbckankou@office.otaru-uc.ac.jp



事務委託/日本ケアフィット共育機構 大阪事務所
和歌山大学
TEL 06-6251-6101
E-mail:osaka@carefit.org



大分大学経済学部
TEL 097-554-7652
E-mail:keisomu@oita-u.ac.jp